

◆八木健 選 ～「滑稽俳壇」アーカイブ～

花粉症なり街角のティッシュ配る人 藤沢 圭

可笑しさは哀感と背中合わせである。この句は、花粉症の人にとっては必需品のティッシュを、他者にせっせと渡しているという滑稽な風景である。やむを得ない場合は、自分で使うこともできるから、安心して業務を遂行できるという利点はある。

股下を計られている万愚節 木村いさを

デパートの紳士服売り場の風景。店員に股下を測られている。「少しお股をお開き下さいませ。すぐ終わりますから」「そんなに厳格に測らんでもいいんだよ」との会話が聞こえてくる。しかし、今や紳士服のチェーン店が進出し、デパートの紳士服コーナーは縮小の一途。これもどこか遠い時代の懐かしい風景になってしまった。

「視力回復法」読みて近視の進む春 魚田裕之

体力増強のために運動をして疲労骨折、サプリメントの飲みすぎで胃潰瘍、高級化粧品で肌荒れ、教育に熱心な親が原因で子が勉強嫌いにとということもある。世の中の悲劇の多くは本末転倒にある。そして、本末転倒は多くの場合、自己責任だから文句を言う相手がない。この句の可笑しさは、人間の愚かさ、必要以上の欲にある。しかし、それらは笑いの対象となる。一句できました。「本末を転倒させて滑稽句」。

アメリカは今(いま)夜ですか蟬の穴 向原草衣

この句の滑稽は、作者の素直な感性にある。童心と言ってもいいだろう。蟬の穴を覗いて随分と深いなあと感じたのだ。日本の反対側はアメリカだから、この穴の先にあるアメリカは夜に違いないと単純に思ったのだ。滑稽は「誇張」によって生まれるが、意図的に誇張するのではなく、この句のように結果として誇張になる自然さは好ましい。

六月の花嫁健康さうな肩 山本 賜

滑稽句には、分かりやすいものと、一見どこに滑稽があるのか分かりにくいものがある。「健康さうな」は、一般的にはプラスイメージの表現だが、厳つい肩をして筋骨隆々としているのであれば、楚々とした花嫁というイメージを裏切ることになる。多くを語らず、「健康さうな肩」で花嫁さんの特徴をうまく表現している。

行水の二度目の音を消してをり

松浦敬親

水不足で節水を呼びかけられているのか。安普請の集合住宅で深夜の騒音を気遣っての遠慮なのだろうか。いずれも読者に心当たりの想像をさせるに十分である。では滑稽はどこにあるのかと言えば、日本人特有の心遣いと遠慮にある。そこまで気遣いをしなくても良いではないか。過ぎたる遠慮に滑稽を感じさせる。

袴を忘れてきたる雨蛙

田代青山

「見立て」の句である。雨蛙が両手をついているのだろう。お殿様の前で家臣が平服して何か報告でもしている様子を作者は思ったに違いない。当の雨蛙にはそんな意識は微塵もないが、作者がそう見たところが可笑しい。擬人化の句でもある。見立ての句は作者の想像力に読者が共感することで、滑稽が生まれる。

揚花火喉仏にも見せてやる

有吉堅二

俳句は、読者にその映像が伝わるのが肝心である。作者の真上に上がった花火は仰け反るようにして観ることになる。すると喉仏が上にくるから心ならずも喉仏に見せる格好になる。「見せてやる」は、喉仏様に恩着せがましく言っているとも、優しさで「見せてあげる」と言っているともとれる。滑稽俳句では動植物を擬人化することは多いが、体の部位を擬人化するのも面白い。

背泳ぎと言ひ腹泳ぎとは言はず

松浦敬親

誰も気づかなかったことを句にすることができれば無上の喜びとなる。拙句に「背泳ぎの臍を見られてしまひけり」がある。にっぽん丸のクルーズでの体

験を描いたのだった。これは思いがけない出来事で、船内のカルチャー教室の講師をした後で甲板にあるプールで背泳ぎをしていたら、俳句教室の受講者に見られてしまったのだった。

大小のヘソ干されいる夏の海

松井 勉

夏の写生句である。浜辺では、泳ぐよりも陽光を浴びる人や昼寝をしている人も多い。人そのものが干されているのだが、ヘソに注目し、そのヘソに大小があるという点に着目したところに滑稽感がある。滑稽句には、「皮肉」「からかい」「自虐」など様々あるが、この句は分類すれば、ナンセンスの句ということになる。なんでもない言葉を使ってクスリと笑わせるのは、作者の感性の良さは言うまでもないが、その視点の斬新さにある。